

5 - 2 東海・南関東地域の地震活動（1984年11月～1985年4月）

Seismic Activities in the Tokai and Southern Kanto Districts (November, 1984 - April, 1985)

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division, Japan Meteorological Agency

第1図(a)～(f)は1984年11月から1985年4月までに発生した地震の月別震央分布であり、第2図(a), (b)はそれぞれ1984年11月～1985年1月および1985年2月～4月の3か月間の震央分布である。

東海地域では、静岡県西部から愛知県にかけての地域で地震がやや多く発生したが、いずれもM3クラス以下の比較的小さいものばかりであった。今年に入ってから、浜名湖の東側で、M1～2程度の小さい地震であったがまとまった活動がみられた。また天竜川河口付近で、3月2日から4日にかけてやはりM1～2程度の小さい地震が数個発生した。駿河湾とその南方沖の海域では、12月に湾の南部でM1～2程度の小さい地震が数個発生したが、この期間全体的には地震活動は静穏であった。

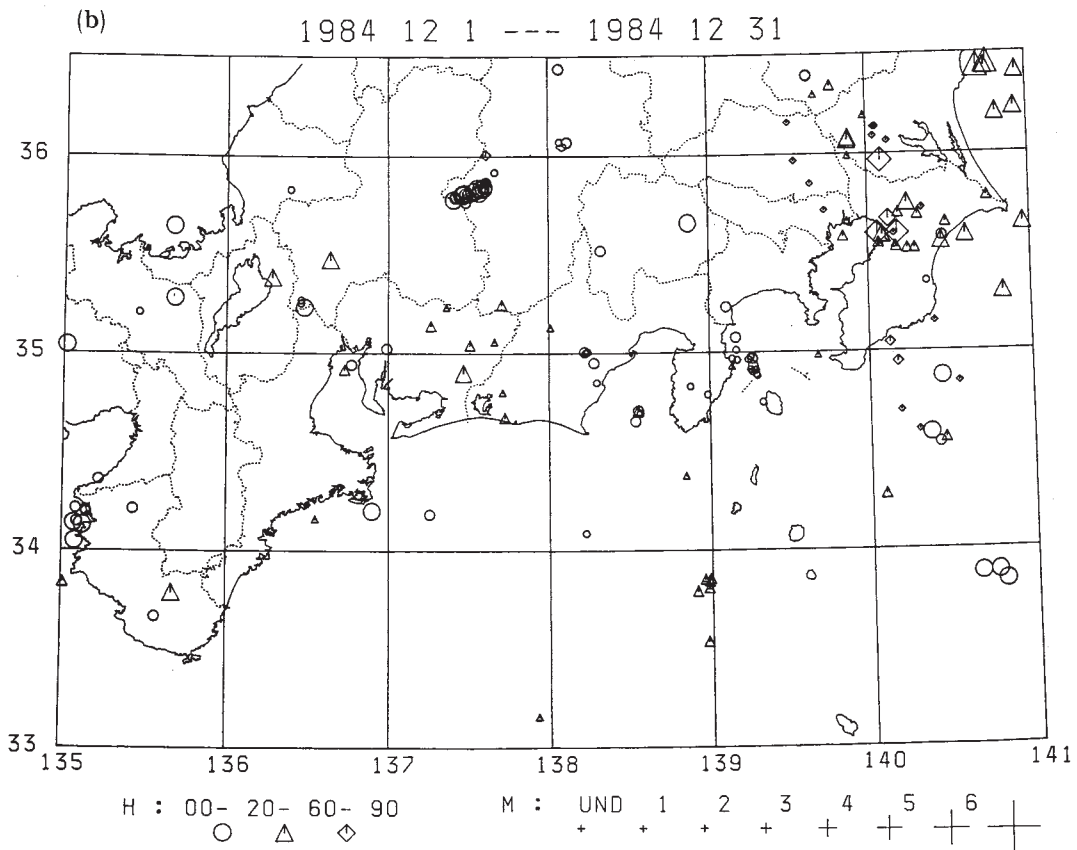
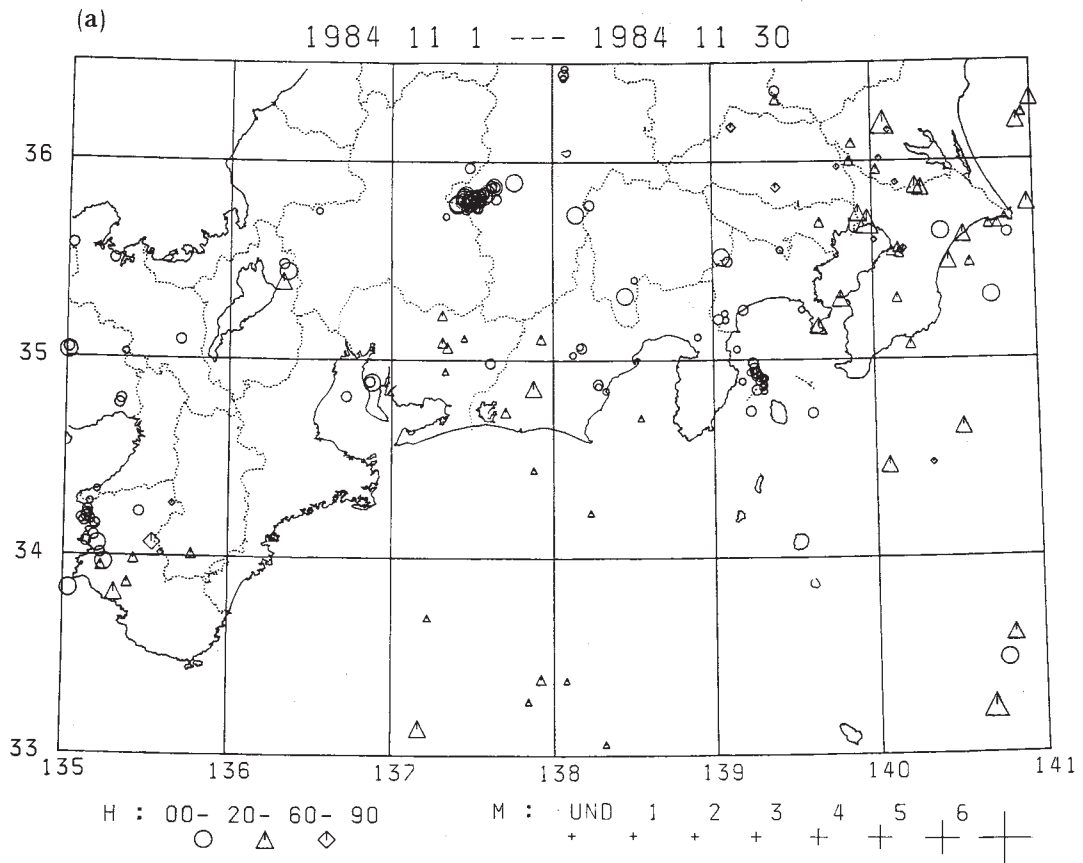
東海地域の周辺域で目立った活動としては、伊豆半島東方沖の群発地震、箱根付近および山梨県北部の地震、長野県西部地震の余震活動などがあった。伊豆半島東方沖の地震活動と長野県西部地震の余震活動については別項で述べる。箱根付近の地震は主として1月と2月に発生したもので、このうち最大は2月9日に発生したM2.7の地震で、震源の深さはいずれも極く浅いものであった。山梨県北部の県境付近で3月10日頃から4月中旬にかけて地震が頻発した。震源が求められた地震はわずかであったが、これまであまり起こっていなかったところで発生したもので注目された。3月17日のM3.1, 30日のM3.5, 4月8日のM3.3の地震が主なもので、30日のM3.5の地震では甲府で震度1が観測された。

その他の地域では、1月6日00時45分と46分に和歌山・奈良県境付近でそれぞれM5.9, 5.5のやや深い地震が連続発生した。前の地震では最大震度大阪で4、後の地震では大阪、潮岬などで震度3であった。3月11日12時01分に茨城県沖でM5.0の地震が発生し、最大震度は水戸、福島などで震度2であった。また、4月9日14時15分には房総半島南東沖でM5.5の地震があり三宅島、横浜などで震度2が観測された。この地震ではM3.9の地震をはじめいくつかの余震を伴った。

第3図は1984年1年間に東海・南関東で発生した震源の深さ90km以浅の地震の震央分布である。目につく主な地震活動は、東海地域では、静岡市付近の活動、静岡県西部から愛知県

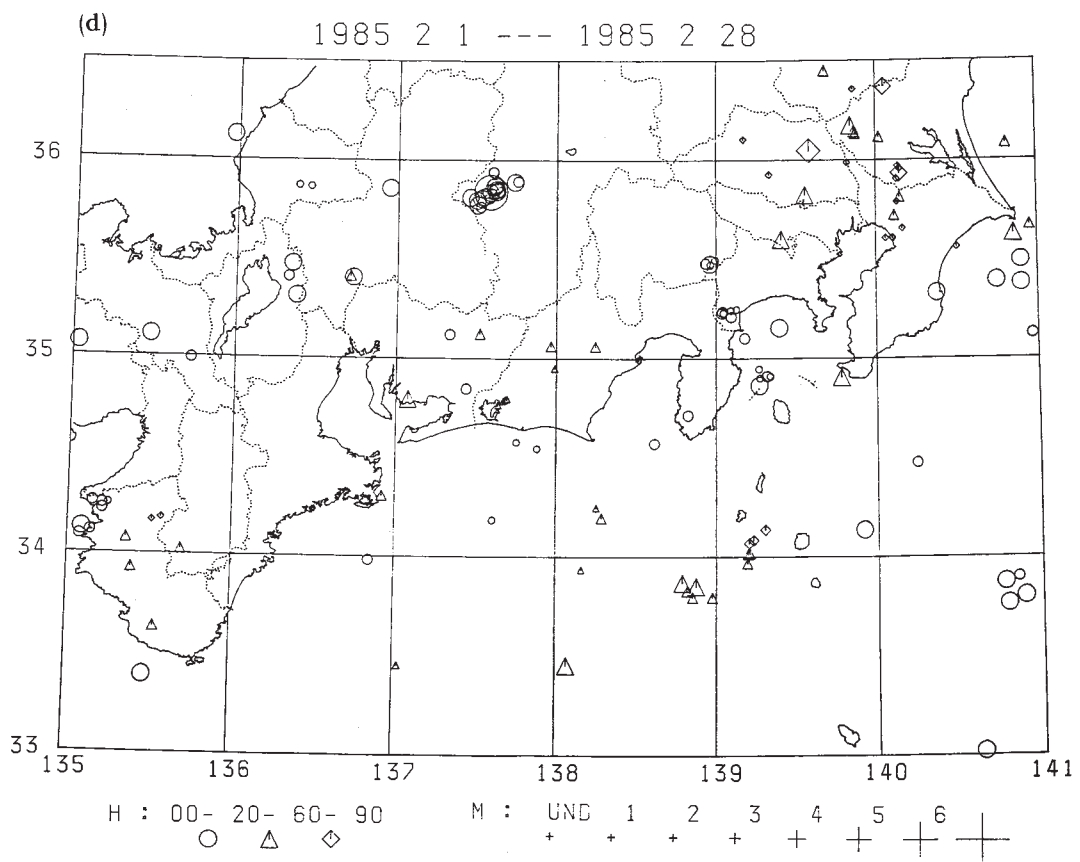
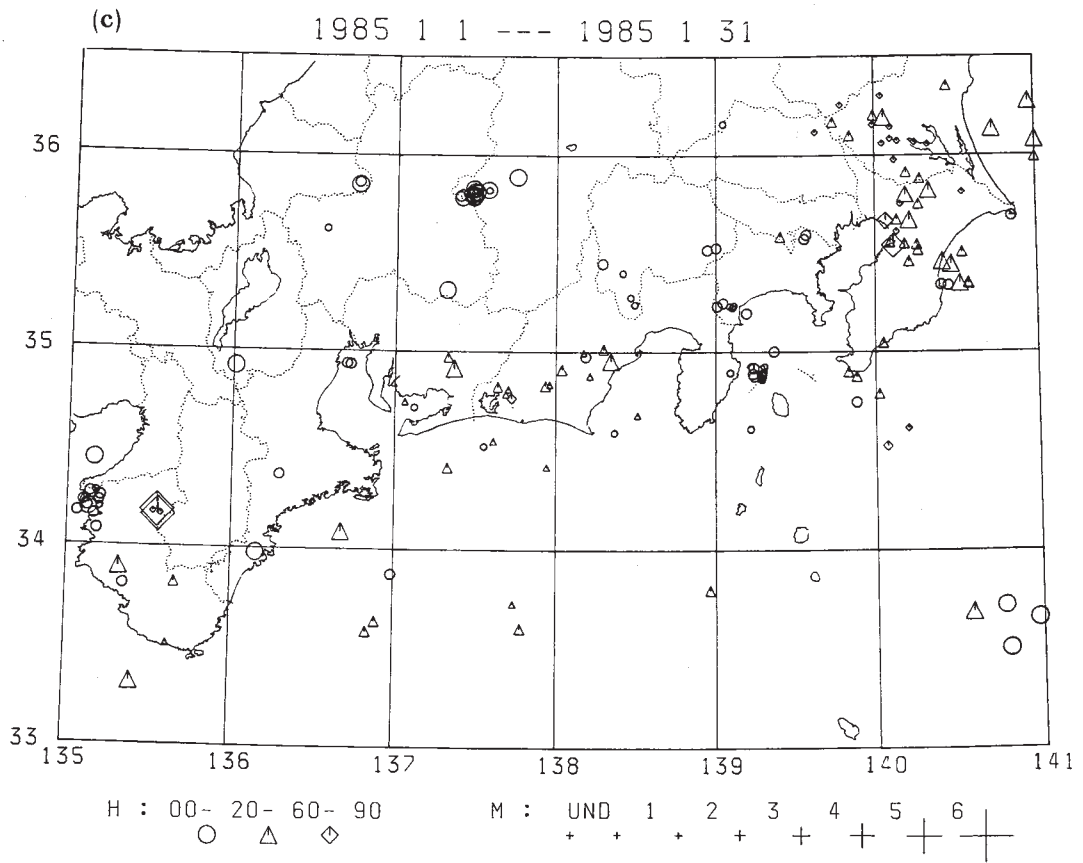
にかけての活動などである。またその他の地域では、伊豆半島東方沖、山梨・神奈川県境付近、長野県西部、千葉県中部および茨城県南西部などの活動である。

第4図 (a) ~ (c) は東海地域における過去4年間の地震活動の変化をみたもので、図 (b) は図 (a) に示す A, B, C 3地域について、M-Tプロット、放出エネルギーおよび地震回数の積算値を示したものである。図 (c) は伊豆地方を中心としたC地域について拡大したものである。用いた地震は東海常時監視網で震源が求められたもの（地震月報で震源が求められたものはこれをおきかえた）と地震月報の地震のうち震源の深さ60km以浅のものすべてである。ただし、M-TプロットはM3.0以上の地震だけである。図の中で階段状に上っているのが放出エネルギーの積算値を示すものであり、比較的緩やかに上っているのが地震回数のものである。放出エネルギーの積算値では、図 (b) の場合 1×10^{20} エルグ、図 (c) では 1×10^{21} エルグに達するとリセットされるようになっており、図にRを付した数字はその回数を示す。最近のところでは、伊豆地方を中心としたC地域で3月~4月の伊豆半島東方沖の群発地震により地震回数は急激に増加したが、小さい地震ばかりであったため放出エネルギーの積算値にほとんど変化がみられなかったのが特徴的である。A, B地域では目立った変化はなかった。

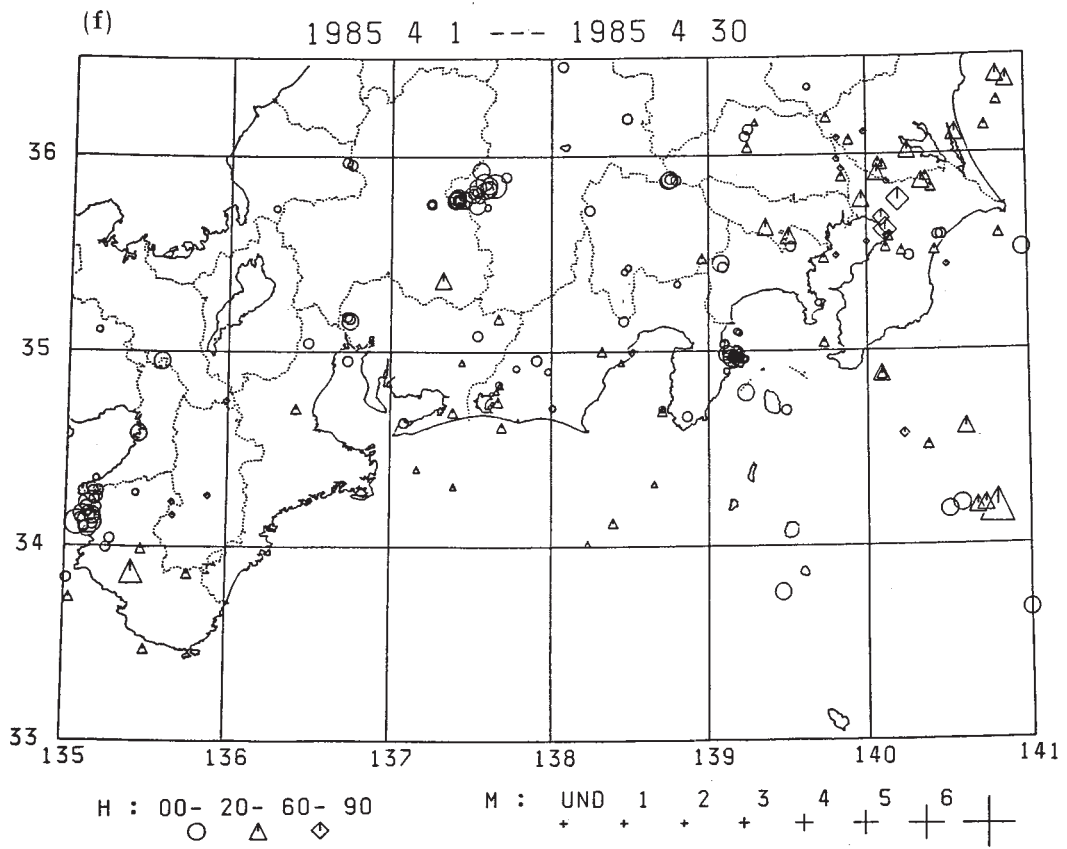
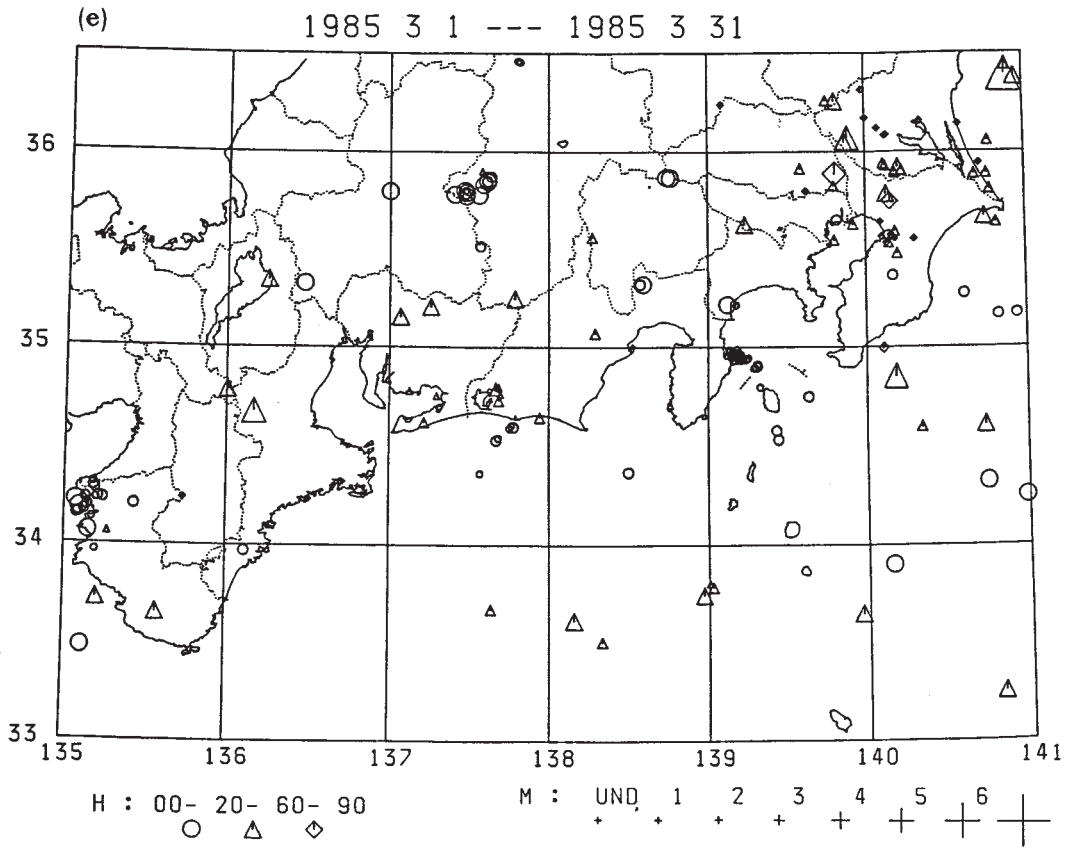


第1図 (a) ~ (f) 東海・南関東地域に発生した地震の月別震央分布
 (1984年11月~1985年4月)

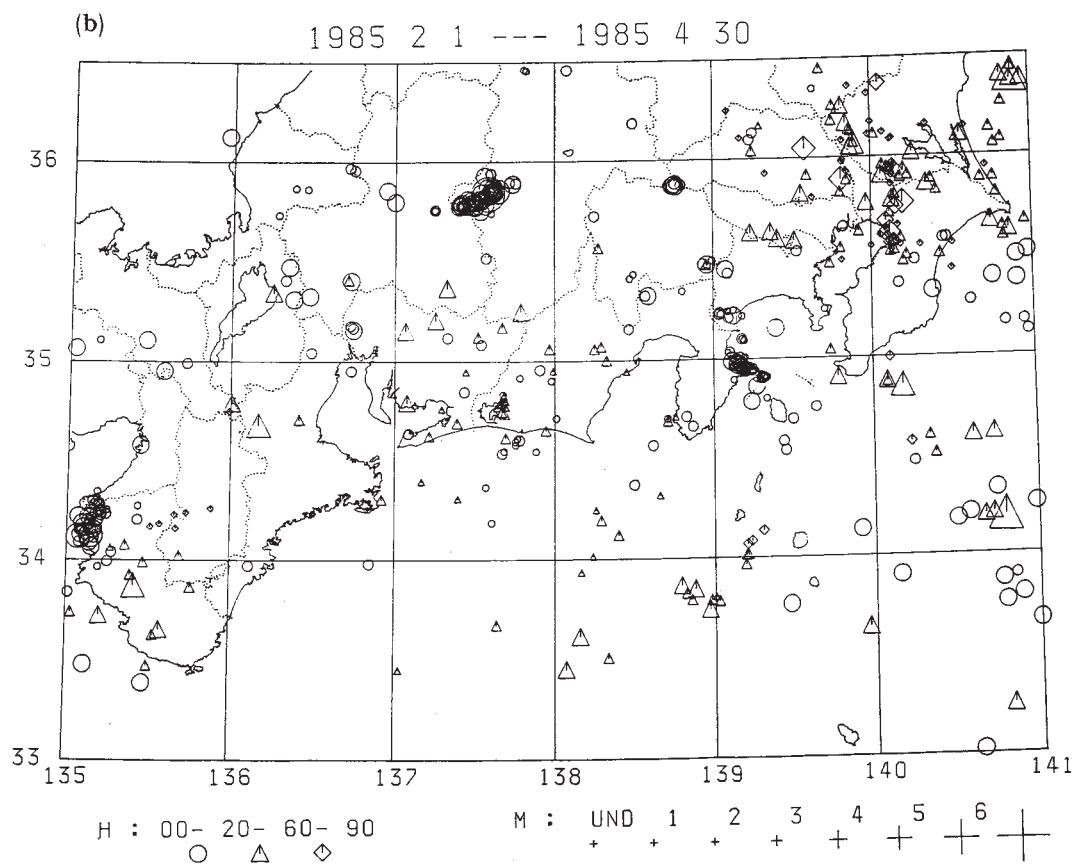
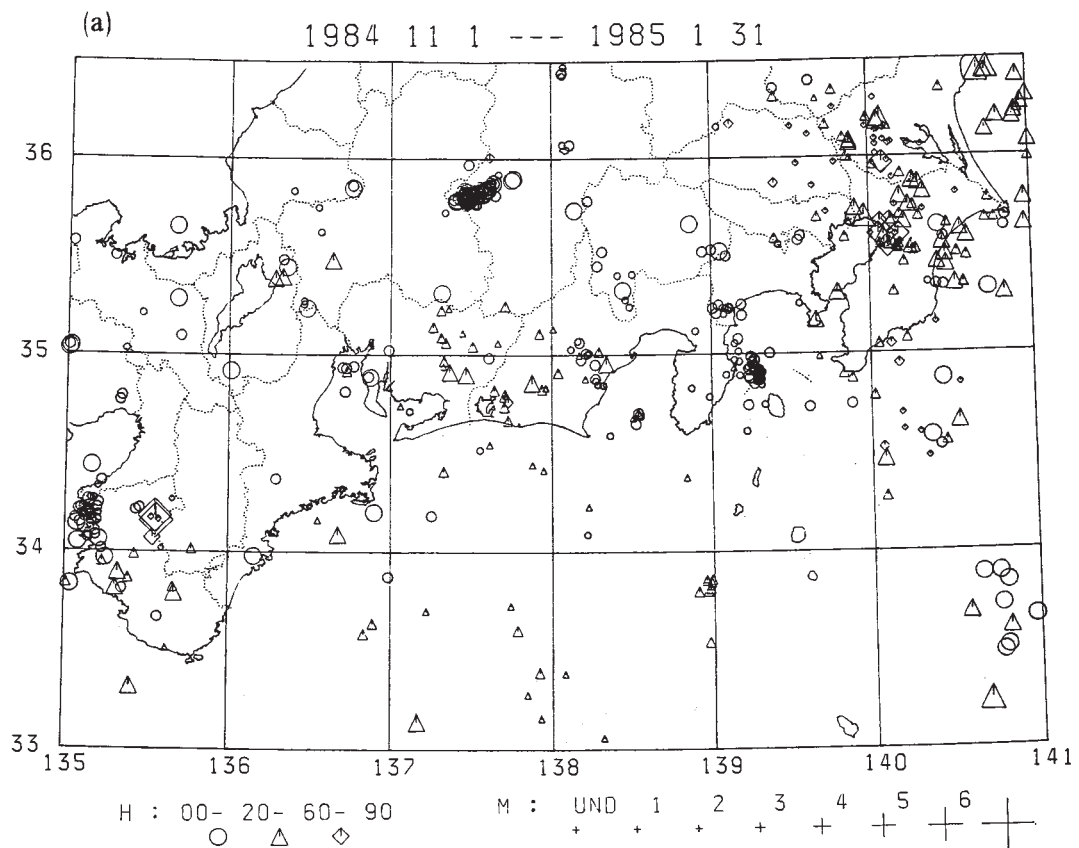
Fig. 1 (a) - (f) Monthly distribution of epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts, November, 1984 - April, 1985.



第1図 つづき
 Fig. 1 (Continued)

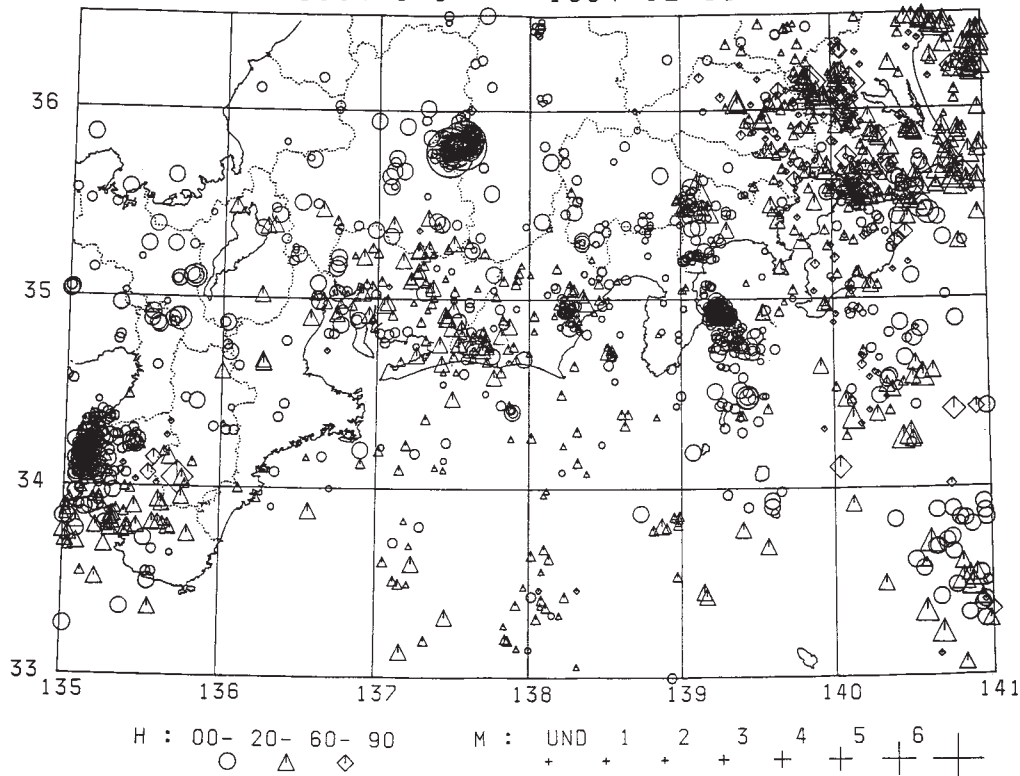


第1図 つづき
 Fig. 1 (Continued)



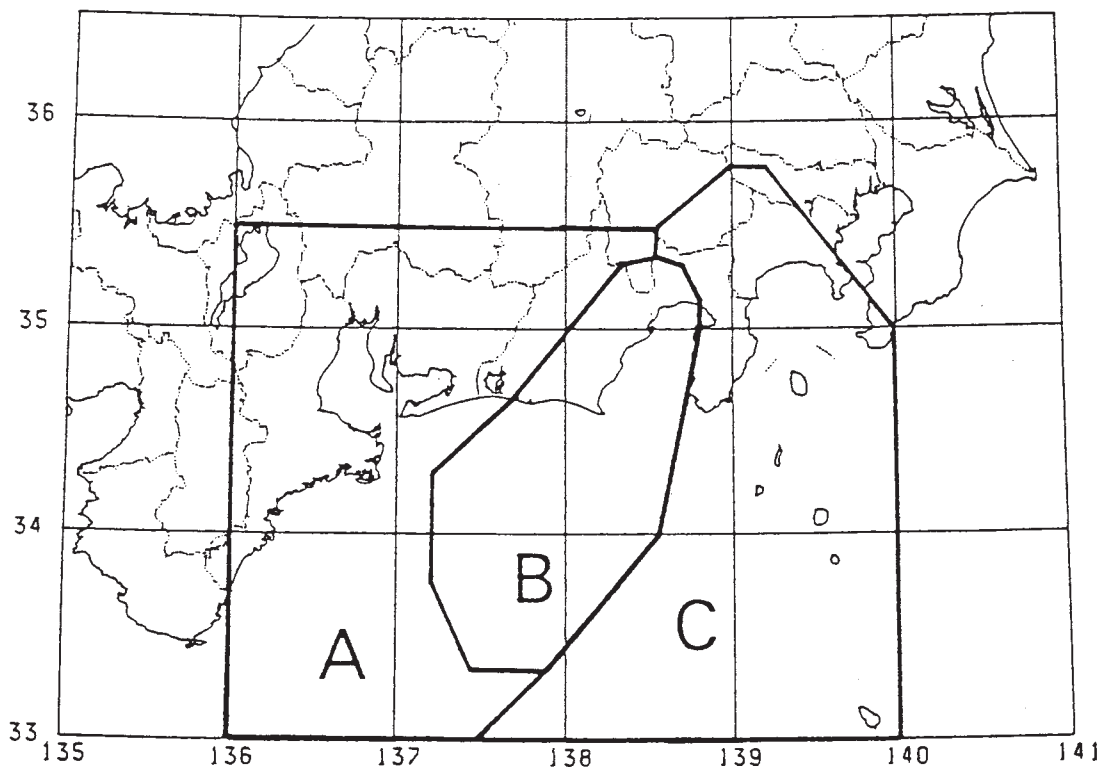
第2図 (a), (b) 1984年11月～1985年1月および1985年2月～4月の3か月の東海・南関東地域に発生した地震の震央分布

Fig. 2 (a),(b) Distribution of epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts in the periods of November, 1984 - January, 1985 and February - April, 1985 respectively.



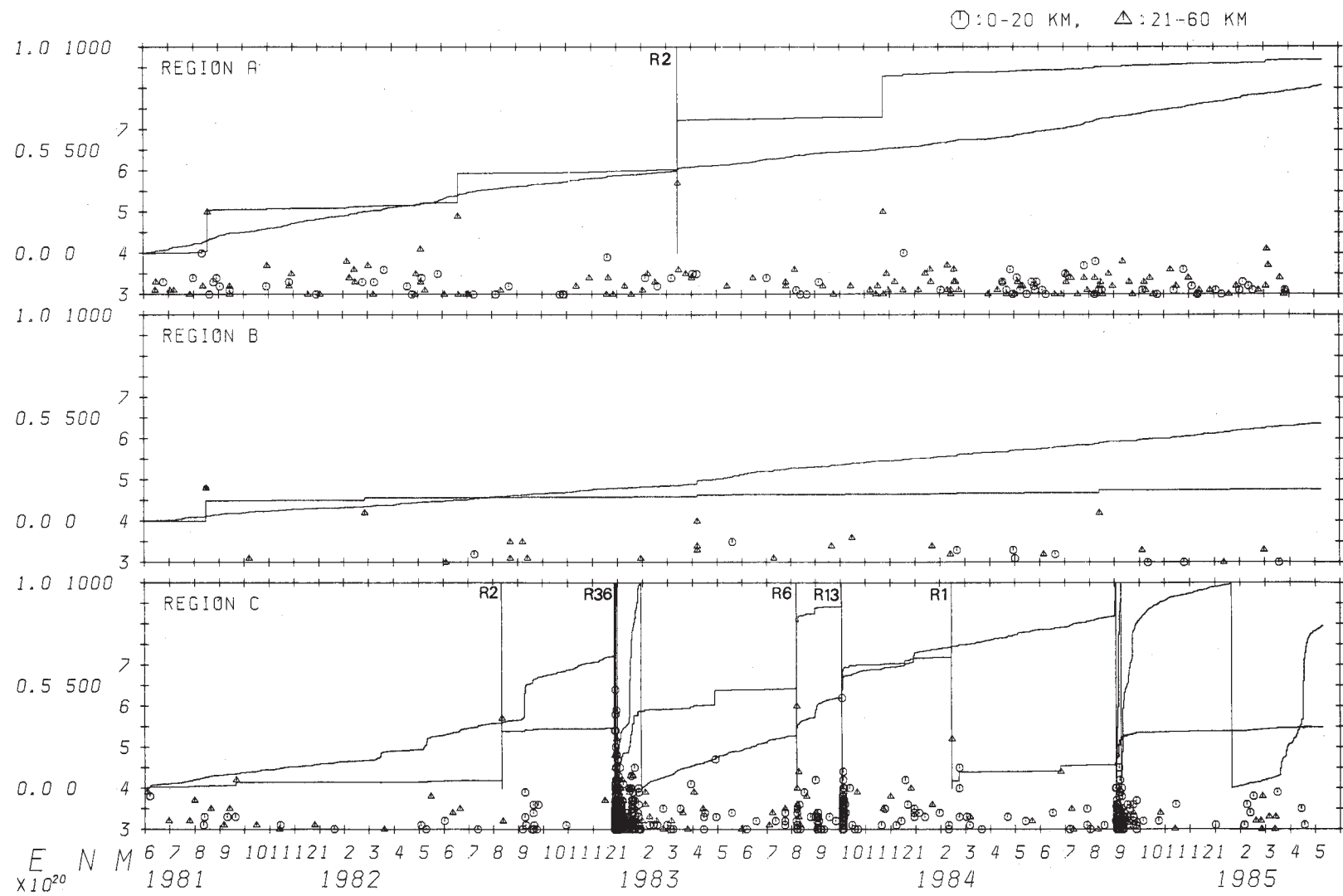
第3図 1984年1月～12月の東海・南関東地域に発生した地震の震央分布

Fig. 3 Distribution of epicenters in the Tokai and Southern Kanto, January - December, 1984.

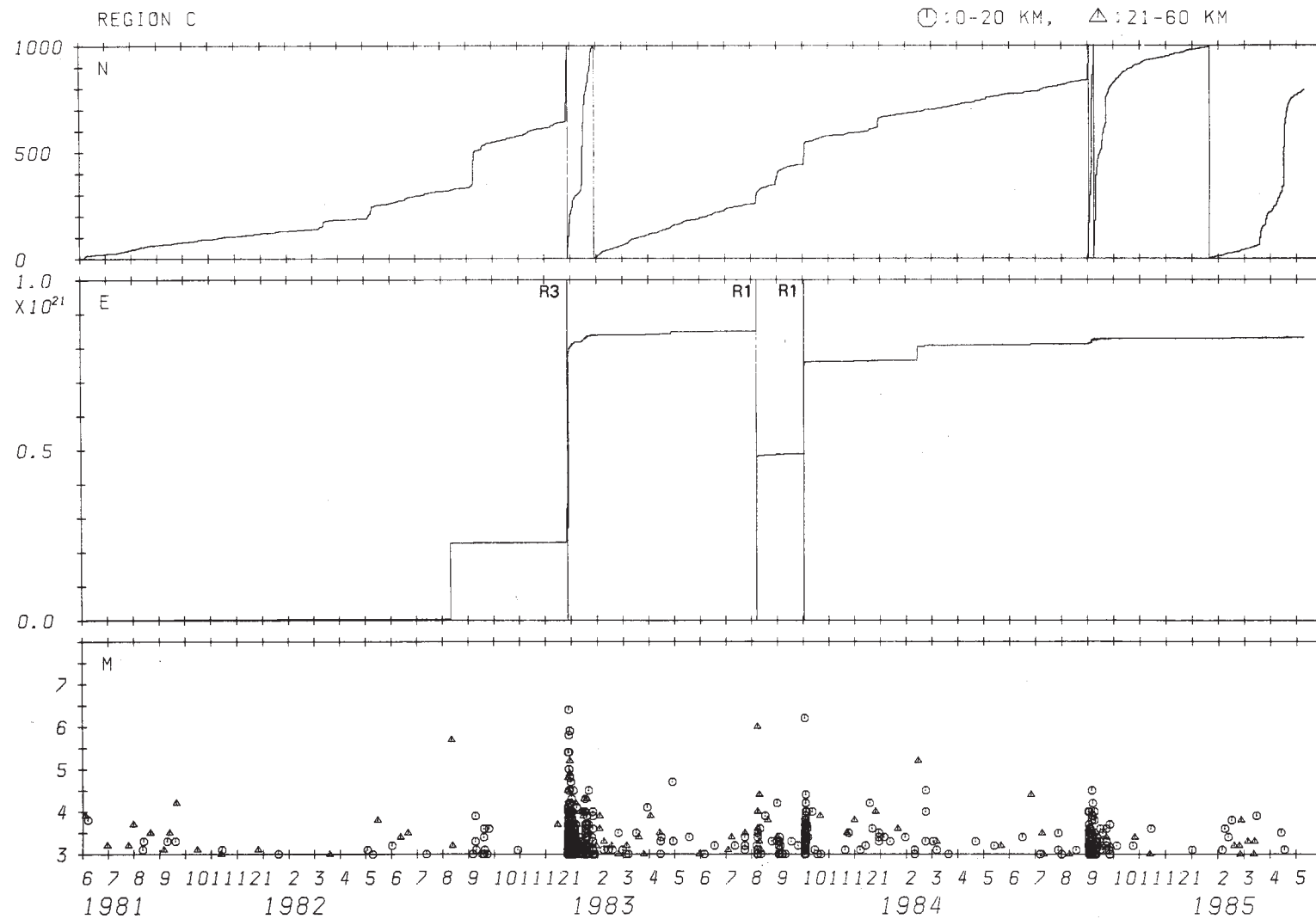


第4図 (a) ~ (c) 東海地方における地震活動の変化 (1981年6月～1985年5月)

Fig. 4 Seismic activity in regions A, B, C shown in Fig. (a), June 1981 - May, 1985. Fig. (b) shows three parameters, that is, accumulated frequencies (smoothly ascending curve), accumulated energy release (stepwise ascending curve), and magnitude (circles and triangles) for regions A, B and C. As the lowest figure of (b) for region C is so complicated, three parameters for the region are given separately in Fig. (c) with different energy scale.



第4図 つづき
Fig. 4 (Continued)



第4図 つづき

Fig. 4 (Continued)